

2019年 3月期 決算説明会



株式会社エフピコ
2019年 5月14日

本資料取扱のご注意

本説明会のプレゼンテーションおよび配布資料に掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本説明会の配布資料に掲載する情報は、**無断での引用や転載、複製は禁じられております。**

=目次=

◆ <u>実績及び計画</u>	専務取締役経理財務本部本部長	池上 功	4
◆ <u>企業価値拡大に向けて</u>	代表取締役社長	佐藤 守正	14
◆ 添付資料			49

2019年3月期 実績

専務取締役 経理財務本部本部長
池上 功

決算概要 (2019年3月期 実績)

単位: 百万円	通期 実績							通期 計画		
	2018年3月期		2019年3月期					2019年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	増減	前年比	数量	計画	構成比	計画比
トレー	29,964	17.3	33,121	18.3	+3,156	110.5%	104.6%	31,570	17.6	104.9%
弁当・惣菜	96,287	55.5	101,108	55.8	+4,820	105.0%	101.9%	100,670	56.2	100.4%
小計	126,252	72.7	134,229	74.1	+7,976	106.3%	102.8%	132,240	73.9	101.5%
その他製品	3,314	1.9	3,350	1.8	+35	101.1%		3,410	1.9	98.2%
製品売上高	129,566	74.6	137,579	75.9	+8,012	106.2%		135,650	75.8	101.4%
包装資材	37,293	21.5	36,823	20.3	△469	98.7%		39,120	21.9	94.1%
その他商品	6,720	3.9	6,768	3.7	+48	100.7%		4,230	2.4	160.0%
商品売上高	44,014	25.4	43,592	24.1	△421	99.0%		43,350	24.2	100.6%
売上高	173,580	100.0	181,171	100.0	+7,591	104.4%		179,000	100.0	101.2%
営業利益	12,884	7.4	13,949	7.7	+1,064	108.3%		14,300	8.0	97.5%
経常利益	13,548	7.8	14,861	8.2	+1,312	109.7%		14,800	8.3	100.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	9,178	5.3	9,901	5.5	+723	107.9%		9,900	5.5	100.0%

- 過去最高
- ✓ 売上高 9期連続 過去最高更新
- ✓ 経常利益 2期ぶり増益

営業利益
西日本豪雨災害に伴う物流コスト増加等により計画未達

経常利益
原価・販管費で負担したコストに対応する営業外収益を計上、計画達成

- ・生産設備補償金
- ・設備投資補助金
- ・受取保険金

償却前経常利益 25,255 28,031 +2,775 111.0% 28,200 99.4%

■ 販売

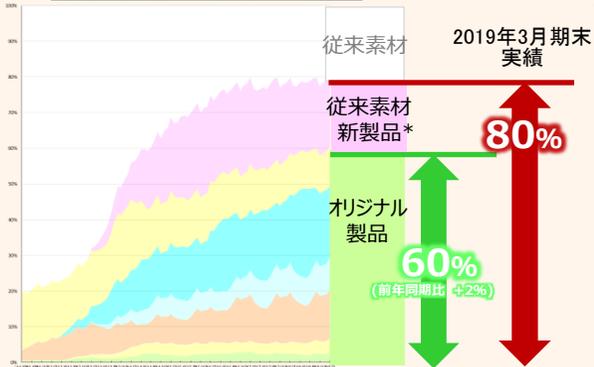
製品>

- ・電子レンジ対応製品・エコ製品の販売が好調
- ・人手不足対応など、高付加価値製品の拡充

商品>

- ・MD商品の拡大強化
- ・不採算取引の見直し

◇製品売上構成比 推移



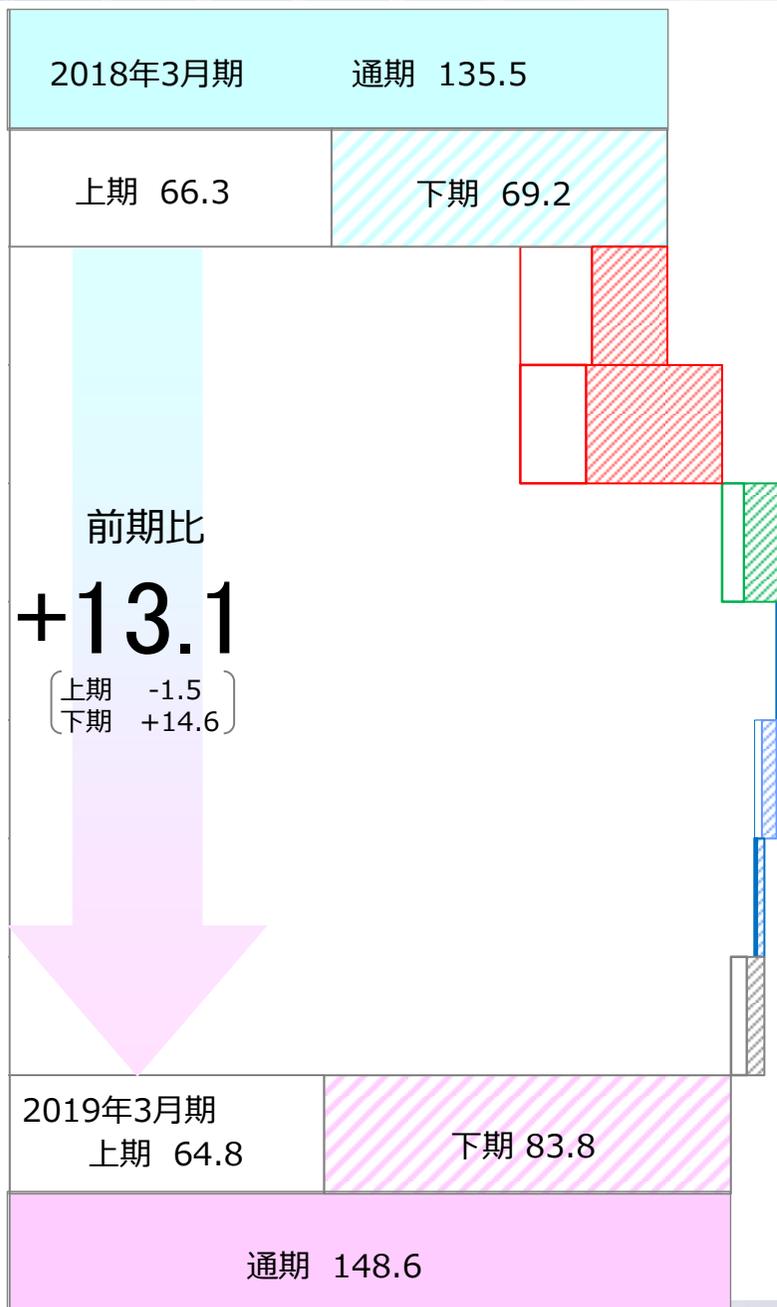
◇実績前年比

	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	通期 期初計画
製品売上高	105.4%	106.4%	108.5%	104.0%	106.2%	104.7%
製品枚数	103.9%	102.2%	104.1%	100.6%	102.8%	104.0%
経常利益	86.7%	106.8%	111.6%	146.1%	109.7%	109.2%

経常利益 利益増減 実績 (2019年3月期)

単位：億円

上期	下期
----	----



実績

原料価格	-30.3	} +11.3
<small>(上期 -14.8、下期 -15.5) (1Q -6.8、2Q -8.0、3Q -9.0、4Q -6.5)</small>		
販売価格	+41.6	}
<small>(上期 +13.6、下期 +28.0) (1Q +1.3、2Q +12.3、3Q +14.5、4Q +13.5)</small>		
販売活動	+11.7	}
<small>(上期 +4.5、下期 +7.2) (1Q +3.8、2Q +0.7、3Q +4.4、4Q +2.8)</small>		
生産	-0.5	} -3.0
<small>(上期 -0.5、下期 ±0.0) (1Q -0.2、2Q -0.3、3Q ±0.0、4Q ±0.0)</small>		
物流	-4.5	}
<small>(上期 -1.5、下期 -3.0) (1Q ±0.0、2Q -1.5、3Q -2.0、4Q -1.0)</small>		
グループ会社	+2.0	}
<small>(上期 +0.5、下期 +1.5) (1Q -0.2、2Q +0.7、3Q +0.3、4Q +1.2)</small>		
経費増減	-6.9	}
<small>(上期 -3.3、下期 -3.6) (1Q -1.8、2Q -1.5、3Q -2.4、4Q -1.2)</small>		
合計	+13.1	
<small>(上期 -1.5、下期 +14.6) (1Q -3.9、2Q +2.4、3Q +5.8、4Q +8.8)</small>		

改善効果	+24.8
人件費・労務費	-4.0
減価償却費	-14.0
電力料	-5.8
運送費	-4.0

人件費	-1.9
減価償却費	-0.6
その他	-4.4

見通しとの差異

2/5時点 見通し	差異	期初 計画	差異
-30.3	±0.0	-26.0	-4.3
+41.6	±0.0	+38.0	+3.6
+12.7	-1.0	+10.0	+1.7
-0.5	±0.0	-2.0	+1.5
-4.5	±0.0	-1.0	-3.5
+1.0	+1.0	+1.0	+1.0
-7.5	+0.6	-7.5	+0.6
+12.5	+0.6	+12.5	+0.6

設備投資・研究開発費

(2019年3月期 実績)

単位:百万円	通期 実績				通期 計画	
	2018年3月期 実績	2019年3月期			2019年3月期	
		実績	増減	前年比	計画	計画比
有形固定資産	29,342	13,442	△15,899	45.8%	17,950	74.9%
無形固定資産	549	595	+45	108.3%	350	170.1%
設備投資	29,891	14,038	△15,853	47.0%	18,300	76.7%
減価償却費	11,706	13,170	+1,463	112.5%	13,400	98.3%
研究開発費	1,197	1,159	△37	96.8%	1,220	95.0%

【主な設備投資】

単位:百万円 投資総額 2019年3月期
通期計画 通期実績 主な差異

世界初のオリジナル製品生産に対する投資

◆ OPET製造設備のエコ化		350	320	
◆ エコAPET生産工場(筑西)	4,000	1,260	0	△ 1,260

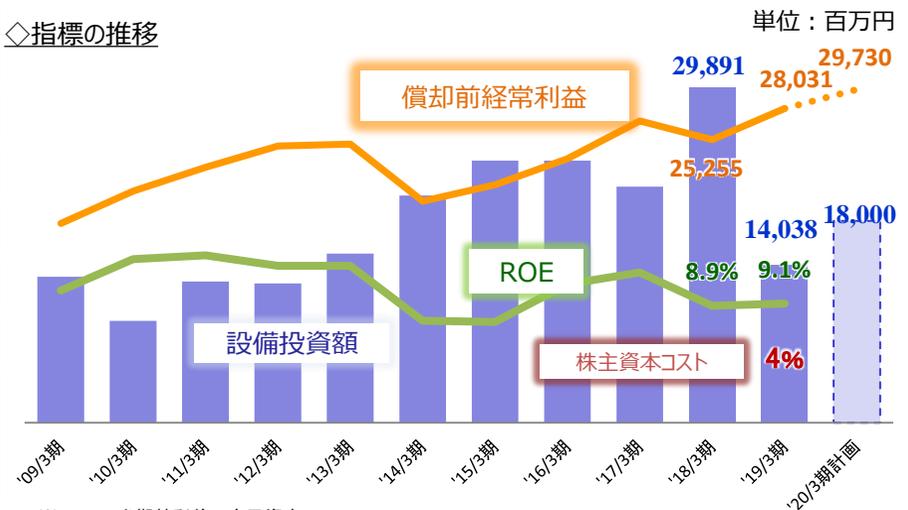
販売量拡大に対する投資

◆ 自動化設備の導入		570	401		
◆ グループ会社拠点の整備・増強					
フィルム印刷工場	2018年 3月 完成	4,750	2,020	1,982	
リサイクルペレット増産設備			1,240	691	△ 549
広島事務所兼倉庫	2018年 10月 完成	1,450	950	951	
エフピコインターバック物流倉庫	2018年 11月 完成	790	680	681	
	本社 2019年 3月 完成	920	880	879	
◆ 金型			2,210	1,462	△ 748
◆ IT投資			510	559	

⇒業界での圧倒的な優位性

高付加価値製品と物流インフラによる収益確保

◇指標の推移



貸借対照表 (2019年3月期 実績)

単位: 百万円	前連結会計年度	当連結会計年度			
	2018年3月期 2018/3/31	2019/3/31	増減	前年比	主な増減内訳
流動資産	79,395	84,647	+5,252	106.6%	現金及び預金 +3,492 受取手形及び売掛金 +1,025 商品及び製品 +858
固定資産	164,751	164,684	△67	100.0%	
資産合計	244,147	249,332	+5,185	102.1%	
流動負債	77,174	76,854	△320	99.6%	短期借入金 +1,287 未払法人税等 +1,341 未払金 △4,292 未払消費税等 +1,833
固定負債	60,752	60,279	△473	99.2%	退職給付に係る負債 +1,062 リース債務 △1,639
負債合計	137,927	137,133	△794	99.4%	
純資産合計	106,219	112,198	+5,979	105.6%	利益剰余金 +6,552
負債純資産合計	244,147	249,332	+5,185	102.1%	

自己資本比率 44.8%

- 資産 オリジナル製品の能力増強と安定供給への戦略投資
- 負債 戦略投資の原資として借入金の活用
- 純資産 経営体質の充実強化
事業拡大に向けた機動的な対応への備え

◇売上高・総資産 推移



キャッシュ・フロー (2019年3月期 実績)

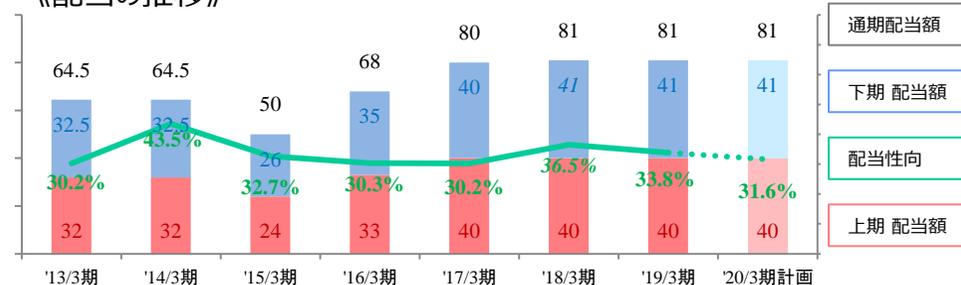
単位: 百万円	通期	
	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績
営業活動によるC/F	13,974	25,510
投資活動によるC/F	△ 23,656	△ 17,109
フリーキャッシュフロー	△ 9,682	8,400
財務活動によるC/F	7,197	△ 4,908
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,485	3,492
現金及び現金同等物の期末残高	15,659	19,151

営業活動によるC/F改善の内訳(前期比)

償却前経常利益の改善	+2,775
前期の大型投資消費税	+3,367
月末休日の影響	+3,064
前期に在庫増加	+2,489
その他	△160
合計	+11,535

- 営業CF オリジナル製品販売と合理化による利益確保
- 投資CF 収益基盤構築に向けた戦略投資を実施
- 財務CF 戦略投資の原資として借入金が増加
継続的に安定した配当の実施

《配当の推移》



2020年3月期 計画

決算計画概要 (2020年3月期 計画)

単位: 百万円	通期 実績		通期 計画				上期 計画			
	2019年3月期		2020年3月期				2020年3月期			
	実績	構成比	計画	構成比	増減	前年比	計画	構成比	増減	前年比
トレー	33,121	18.3	34,800	18.7	+1,678	105.1%	17,000	18.5	+937	105.8%
弁当・惣菜	101,108	55.8	103,660	55.7	+2,551	102.5%	51,330	55.8	+1,064	102.1%
小計	134,229	74.1	138,460	74.4	+4,230	103.2%	68,330	74.3	+2,002	103.0%
その他製品	3,350	1.8	3,340	1.8	△10	99.7%	1,670	1.8	+5	100.3%
製品売上高	137,579	75.9	141,800	76.2	+4,220	103.1%	70,000	76.1	+2,008	103.0%
包装資材	36,823	20.3	37,800	20.3	+976	102.7%	18,900	20.5	+201	101.1%
その他商品	6,768	3.7	6,400	3.4	△368	94.6%	3,100	3.4	+213	107.4%
商品売上高	43,592	24.1	44,200	23.8	+607	101.4%	22,000	23.9	+414	101.9%
売上高	181,171	100.0	186,000	100.0	+4,828	102.7%	92,000	100.0	+2,422	102.7%
営業利益	13,949	7.7	15,500	8.3	+1,550	111.1%	7,250	7.9	+1,089	117.7%
経常利益	14,861	8.2	16,000	8.6	+1,138	107.7%	7,400	8.0	+916	114.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	9,901	5.5	10,600	5.7	+698	107.1%	4,950	5.4	+604	113.9%

償却前経常利益

28,031

29,730

+1,698 106.1%

14,160

+1,170 109.0%

■ 販売

- 製品> ・電子レンジ対応製品、エコ製品の販売拡大
・宅配、冷凍、青果など新マーケットへの高機能製品提案

出荷枚数 : 前年比103%の伸長
トレー容器 : エコ製品を中心に販売拡大
弁当・惣菜容器 : 耐寒・耐熱等の機能を備えたオリジナル製品に加え、魅力的な売り場づくりとバックヤードの効率化をサポートする新製品の提案

商品> マーチャンダイジング・物流・ITインフラを活用し、小規模小口顧客への販売強化

◇ 生産

- ・エコAPET原料の生産能力強化
- ・産業用ロボット導入による省人化

◇ 物流

- ・自社物流活用と積載効率改善によるコスト上昇抑制
- ・倉庫オペレーションの自動化

◇ ESG

- ・地上資源の循環および障がい者の雇用を推進

経常利益 利益増減 見通し (2020年3月期計画)

期初時点

単位：億円

上期	下期
----	----

2019年3月期 通期 148.6	
----------------------	--

上期 64.8	下期 83.8
---------	---------



原料価格 +4.5

(上期 +2.5、下期 +2.0)

バージン 原料	+9.0
エコAPET原料	-2.0
副資材	-2.5

販売価格 +10.5

(上期 +10.5、下期 ±0.0)

販売活動 +7.0

(上期 +3.0、下期 +4.0)

生産 +2.5

(上期 +1.0、下期 +1.5)

-1.5

改善効果	+11.4
人件費・労務費	-4.8
減価償却費	-4.1
電力料	+3.0
運送費	-7.0

物流 -6.0

(上期 -3.0、下期 -3.0)

グループ会社 +2.0

(上期 +0.5、下期 +1.5)

経費増減 -9.1

(上期 -5.3、下期 -3.8)

人件費	-1.8
減価償却費	-1.5
その他	-5.8

合計 +11.4

(上期 +9.2、下期 +2.2)

2020年3月期	
上期見通し 74.0	下期見通し 86.0

通期見通し 160.0	
-------------	--

設備投資・研究開発費 計画 (2020年3月期 計画)

	通期 実績	通期 計画			上期 計画		
	2019年3月期	2020年3月期			2020年3月期		
単位:百万円	実績	計画	増減	前年比	計画	増減	前年比
有形固定資産	13,442	17,700	+4,257	131.7%	6,600	+376	106.0%
無形固定資産	595	300	△295	50.4%	100	△107	48.2%
設備投資	14,038	18,000	+3,961	128.2%	6,700	+268	104.2%
減価償却費	13,170	13,730	+559	104.2%	6,760	+253	103.9%
研究開発費	1,159	1,310	+150	113.0%	640	+86	115.6%

【主な設備投資】

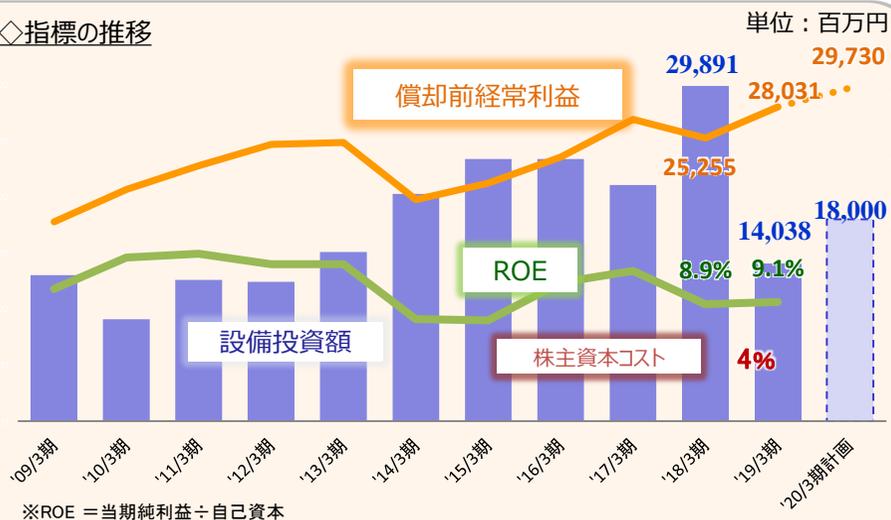
オリジナル製品への投資：エコAPET製品の生産能力・品質向上

	単位:百万円	投資総額	2020年3月期 計画
◆ エコAPET原料 生産能力増強(関東・九州)		280	280
◆ エコAPET原料 生産性向上(関東・中部)		420	420
◆ エコAPET原料 ペレット化による品質向上(中部)		600	160
◆ エコAPET製品 シート押出・成形能力増強(下館・中部)		2,140	1,800

販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備

◆ 自動化設備の導入							
◆ 福山新配送センター	2020年	冬	完成予定	4,345	1,260		
◆ 中部新配送センター	2021年	春	完成予定	5,285	1,320		
◆ 福山独身寮・グループホーム	2020年	3月	完成予定	1,054	1,000		
◆ 古河独身寮	2020年	3月	完成予定	611	580		
◆ 金型					1,870		
◆ IT投資					600		

◇指標の推移



企業価値拡大へ向けて

代表取締役社長

佐藤 守正



株式会社 **エフピコ**

小売業界を取り巻く状況

潮流

中食市場の拡大

(エフピコの実践)

人手不足の深刻化

(魅力ある売り場づくりの提案)

物流費の高騰

(バックヤード効率化の提案)

海洋プラスチック問題への関心高まり

(自社便比率・積載効率向上)

(回収量拡大・リサイクル能力増強)

2018年

2019年

3月

5月

6月

10月

個人消費の2極化 [上質志向
低価格志向]

買上点数の減少

蓋付容器からラップ容器への一時切替

エフピコフェア

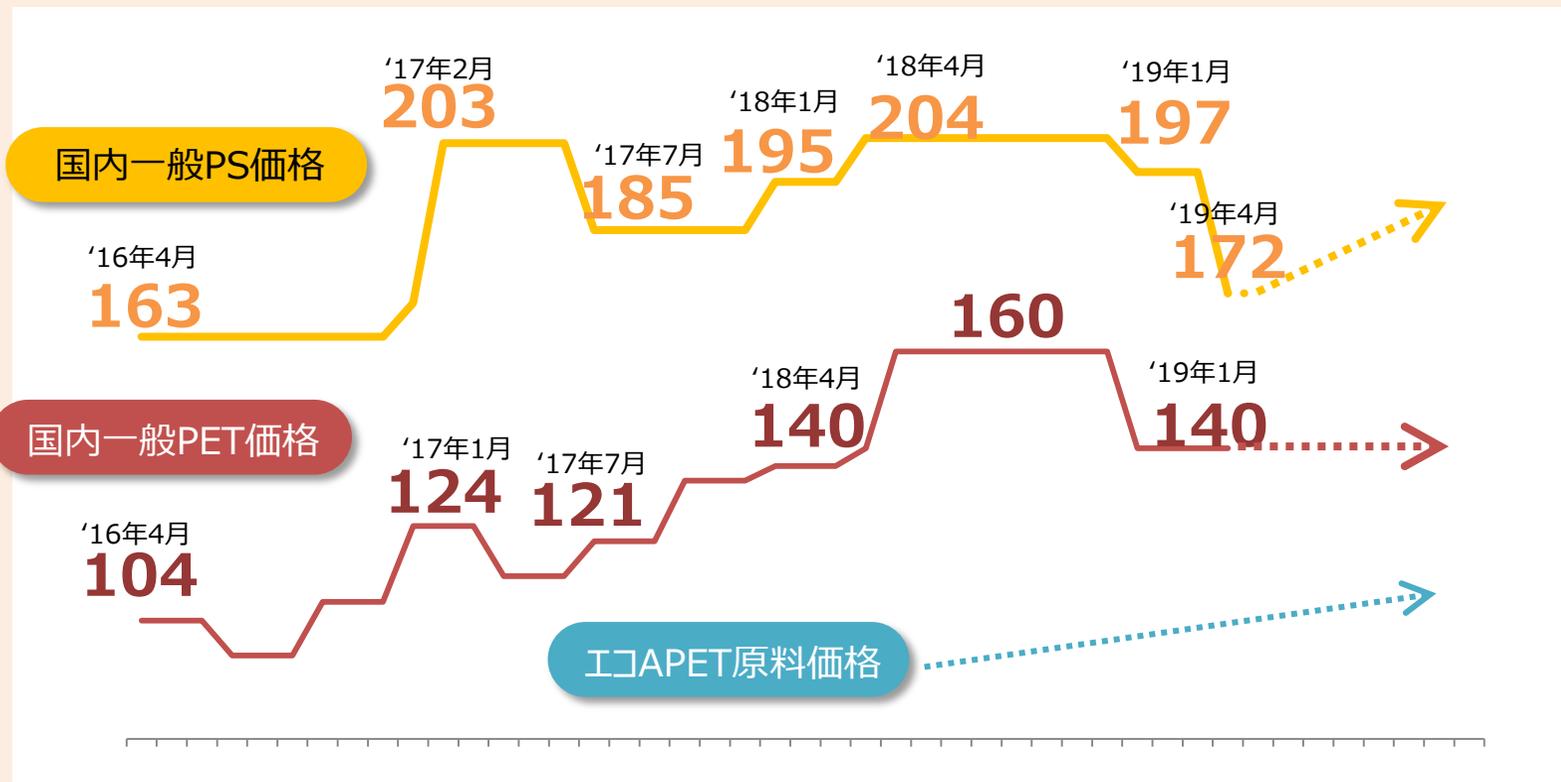
10改元
連休

G
20

消費税率
増税
軽減

価格動向

原材料

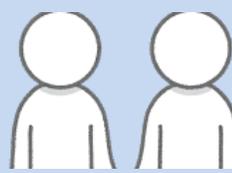


その他経費

物流費



人件費

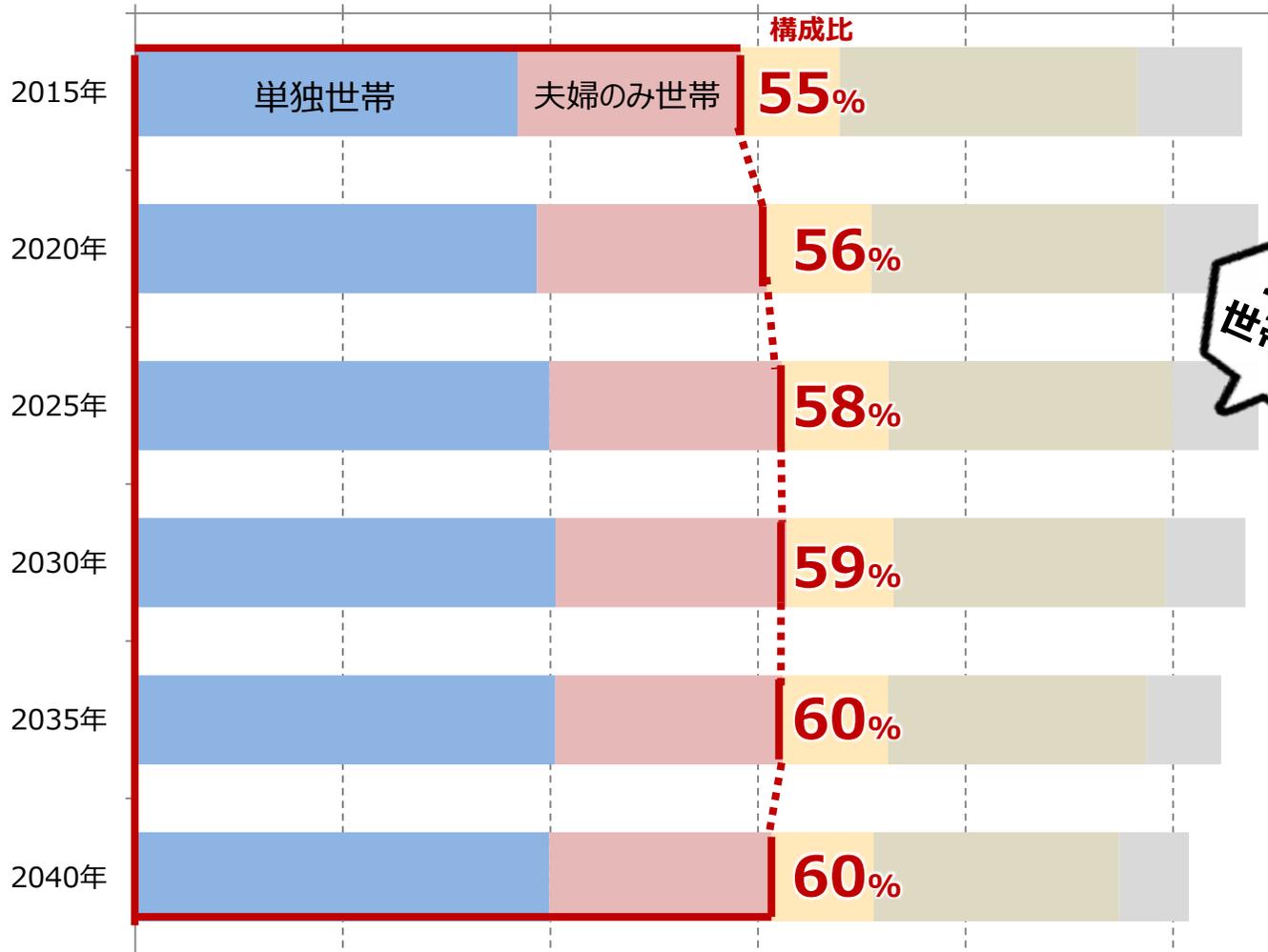


資材費



世帯数の推移

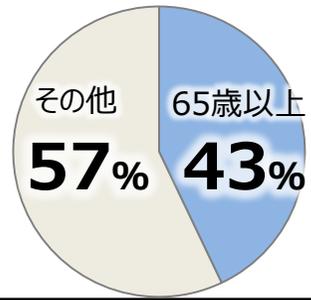
- 単独世帯
- 夫婦のみの世帯
- ひとり親と子から成る世帯
- 夫婦と子から成る世帯
- その他の一般世帯



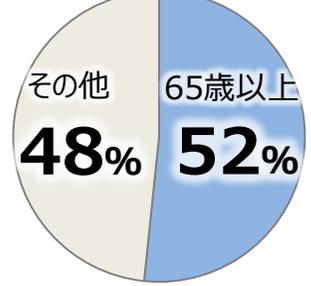
2025年
世帯数ピーク

単独世帯・夫婦のみ世帯
における**65歳以上**の割合

2015年



2040年



中食市場規模推移



消費増税・軽減税率導入

軽減税率「対象」

8%

食品小売
テイクアウト・宅配



8%?



10%?

軽減税率「対象外」

10%

外食(イートイン含む)



参入加速

実施企業 拡大

2018年夏（8月）
114社が導入

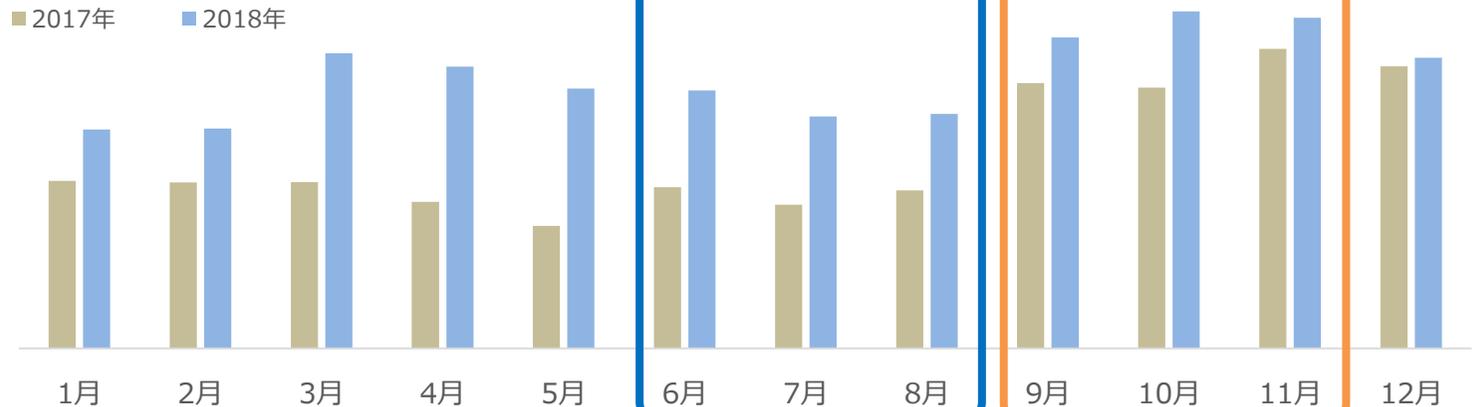
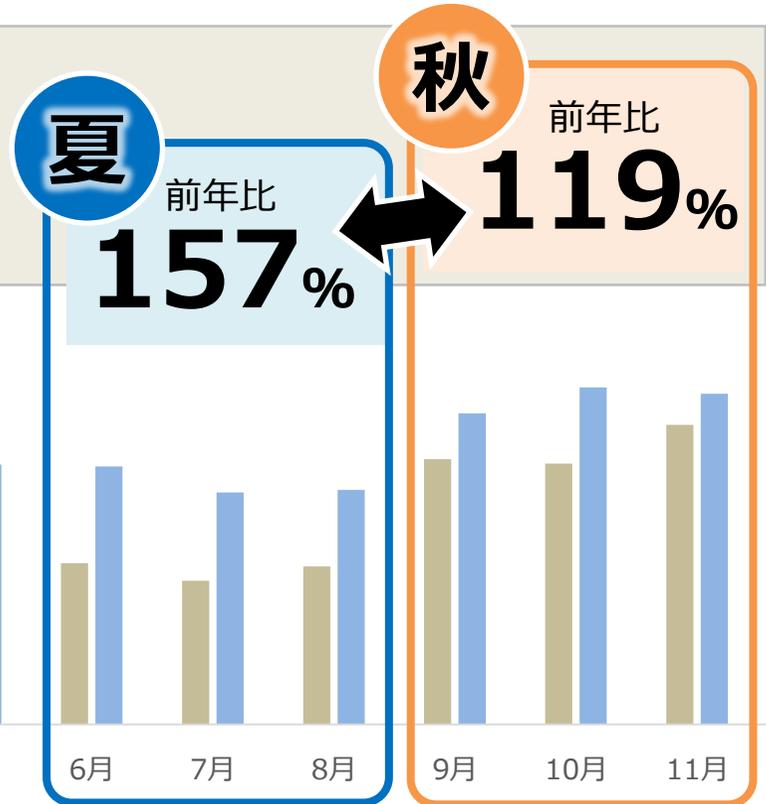


2019年1月
128社へ



本格的に
通年商材へ

夏メニューも増加



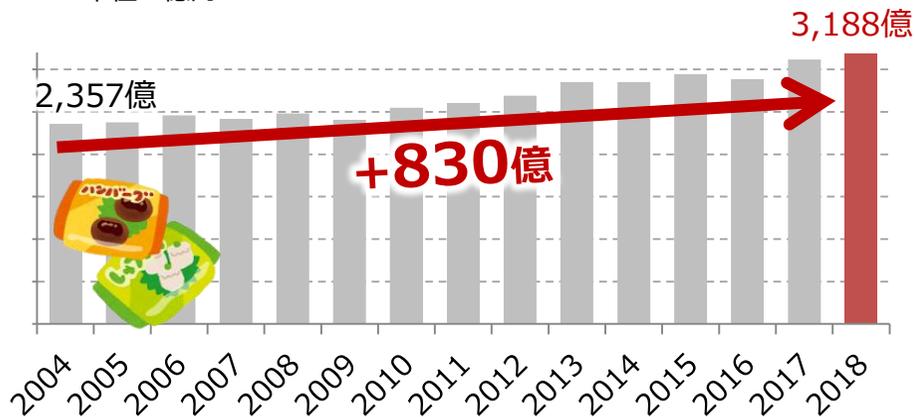
【出荷実績】
生から惣菜主力使用容器
3シリーズの合計



新たな市場「冷凍食品」への挑戦

冷凍食品(家庭用)国内生産金額推移

単位：億円



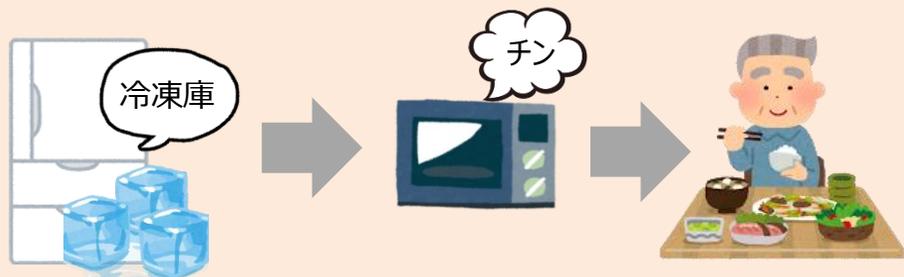
出典：一般財団法人日本冷凍食品協会

現状



MFPの特徴を活かし 冷凍食品マーケットへ

お皿に移さず、そのまま食べられる
(耐寒耐熱温度-40℃～110℃)

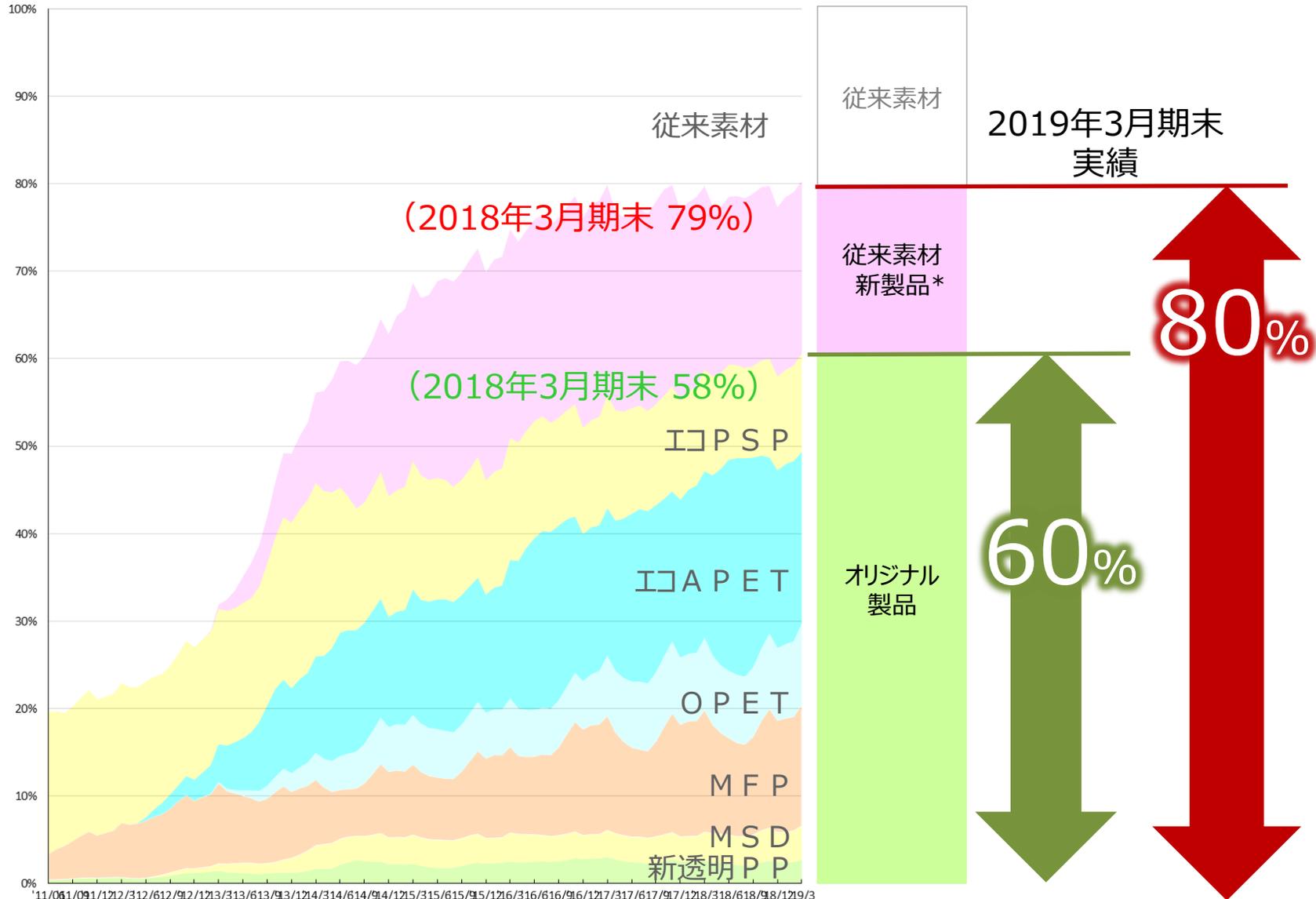


断熱性が高いのでレンジにかけた時

安心安全



製品売上構成比 推移



*2015年12月までは2013年1月以降上市した新製品
2016年1月以降は過去3年の新製品

リサイクルの取組み



海洋プラスチック問題の背景および現状

2つの問題が結合し 世界的に **大きな問題へ発展**

中国の廃棄物輸入規制により
欧州などで廃棄物の処理問題
が深刻化



海洋マイクロプラスチック問題



2018年

G7 海洋プラスチック憲章(抜粋)

2030年までにプラスチック容器の最低55%をリサイクルまたは再使用
2040年 までに全てのプラスチック容器を100%回収する

環境省 プラスチック資源循環戦略

2019年G20サミットまでに策定
エフピコは日本プラスチック工業連盟理事として小委員会に参加
産業界として意見を陳述

2019年

G20 大阪サミット(6/28・29)

関係閣僚会合(5/11~11/23)

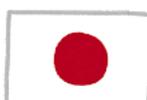
持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に
関する関係閣僚会合
(6/15・16 長野県軽井沢町)

必要な対策 陸上から海洋への流出防止

陸上から海洋に流出したプラスチックごみ発生量ランキング (2010年推計)



統計データはないが インドは 推定500万t/年以上

1位 中国	353万トン/年	
2位 インドネシア	129万トン/年	
3位 フィリピン	75万トン/年	
4位 ベトナム	73万トン/年	
5位 スリランカ	64万トン/年	
⋮		
20位 アメリカ	11万トン/年	
⋮		
30位 日本	6万トン/年	

※環境省資料を参考に当社にて作成

※推計量の最大値を記載

家庭ごみにおけるプラスチックのリサイクル

(一般廃棄物)

ペットボトル



約**75**万トン

単一素材

食品容器



約**80**万トン

軟包装



約**300**万トン

複合素材

マテリアルリサイクル

[材料リサイクル]



サーマルリサイクル

[熱回収(Recovery)]



3 R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進



掲載企業 (3月末時点)
約5,800店舗 (141企業)

Plastics Smart

リサイクルBOXの向こう側へ

使い捨て、なんてもう言わないわ!!

使い終わったらそれは資源。食品トレーは“使い捨て”ではありません。
海洋生物も子供たちの未来も守る。そう、私たちにはやれることがあります。

食品トレーは洗ってリサイクルボックスへ

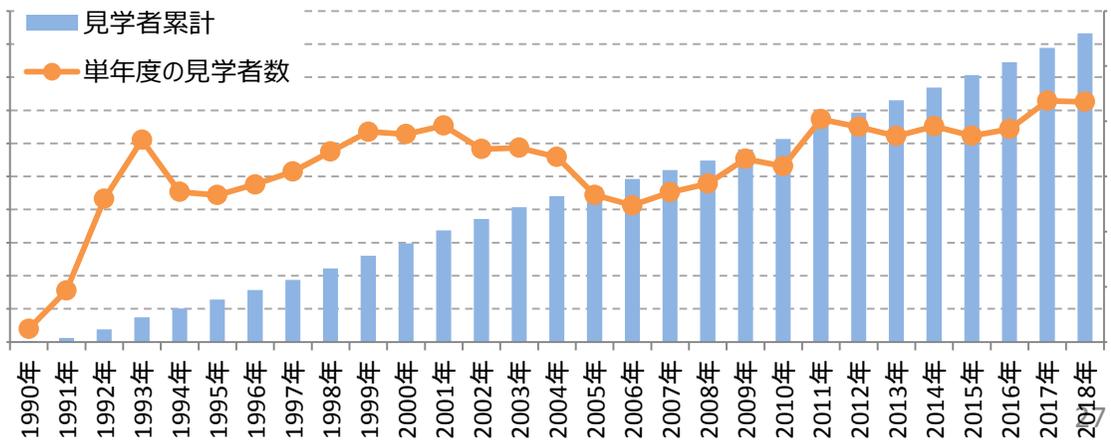
企業名 | トレーからトレーにリサイクルする会社 **エフピコ**

“使い捨て”ではなく“資源”

重要なのは「適正にリサイクルすること」
リサイクルの推進活動をおこなってまいります



リサイクル工場見学者数 年間約**2**万人 累計**46**万人



プラスチック資源の回収

※枚数・本数換算は、標準的なグラム数にて算出
 発泡トレイ：約4g、透明容器：約10g、PETボトル：約25g

リサイクル投入量

2018年3月期実績

2019年3月期実績

2021年3月期目標

容器
(PSP・透明容器)

回収ルート

スーパーマーケット店頭
指定法人ルート

9,200拠点



PETボトル

回収ルート

指定法人ルート
スーパーマーケット店頭
事業系ルート



製品販売量に対する
使用済み製品の投入量比率

約**17**億枚
(8,400トン)

約**18**億枚
(8,700トン)

約**21**億枚
(10,000トン)

約**19**億本
(48,500トン)

約**26**億本
(65,000トン)

約**30**億本
(75,000トン)

32.7%

42.1%

44.7%

 環境省
(プラスチック資源循環戦略)

2030年までにプラスチック製容器包装の**6割**をリサイクル又はリユース
2035年までにすべての使用済みプラスチックを熱回収含め**100%**有効利用

エコトレー・エコAPET CO2削減

エコトレー



CO2削減効果

-30%

2019年3月期CO2排出量
年間**13.5万t**削減
(エコトレー 3.3万t / エコAPET 7.8万t / エコPET 2.3万t)

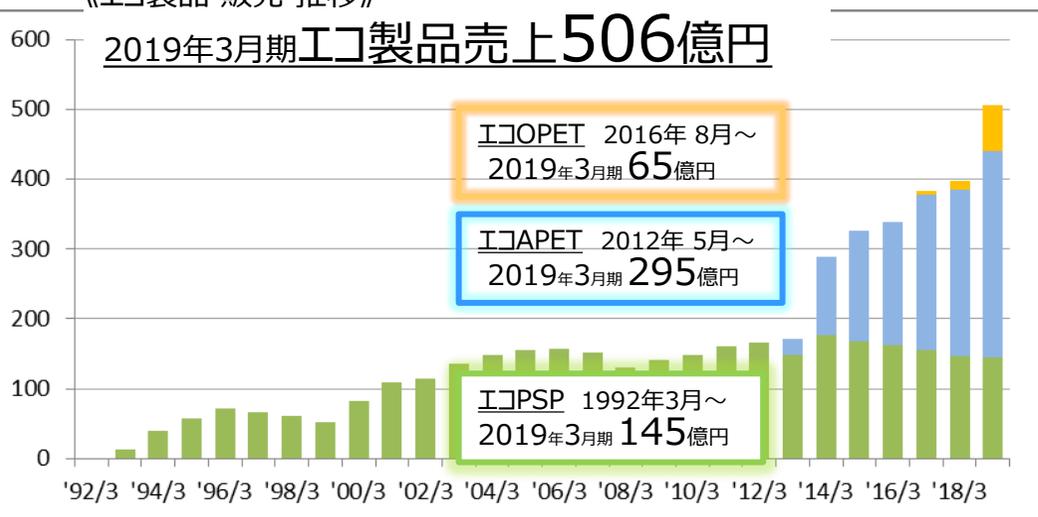
エコAPET



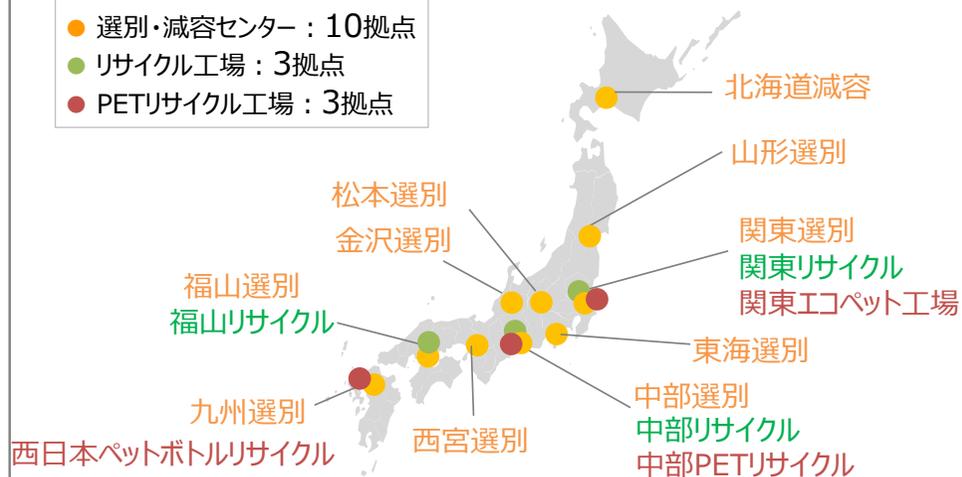
※当社バージン製品とエコ製品の比較 (1kgあたり)

《エコ製品 販売 推移》

2019年3月期エコ製品売上506億円



- 選別・減容センター：10拠点
- リサイクル工場：3拠点
- PETリサイクル工場：3拠点



環境を意識した資材・消耗品選びへ



SM様

当社とのリサイクルの取組みをホームページや社内報で紹介



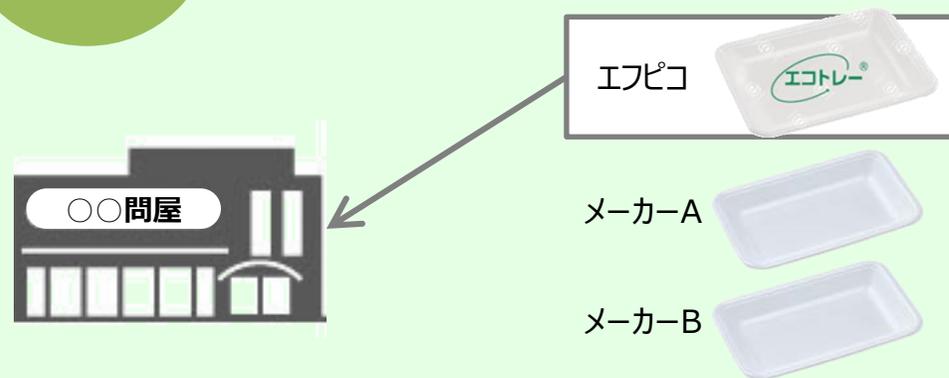
CVS様

環境に配慮した容器・包装を積極的に採用



問屋様

トレーは、エピコの“エコ”へ集約

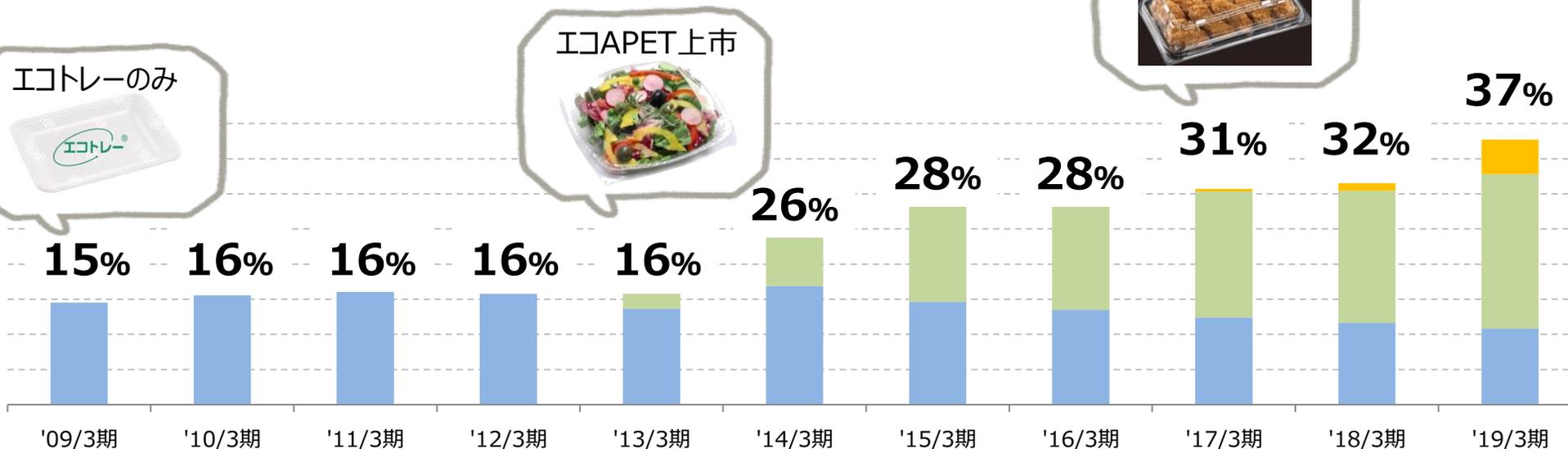


リサイクル投資 と エコ比率



エコ製品 売上構成比

■ エコPSP ■ エコAPET ■ エコOPET



リサイクル投資	中部 加圧1号機 9億円	中部 加圧2号機 7億円	九州 グループ化 3億円	中部 エコペット工場 116億円	関東 エコペット工場 155億円	関東・九州 能力増強 13億円
再生PET原料 供給能力	1万 t		3万 t		5万 t	5.7万 t
PETエコ化率(OPET含む) 第4四半期平均	49%		52%	57%	65%	69%

軽量化

2020年までに2013年度比
5%の軽量化・薄肉化目標

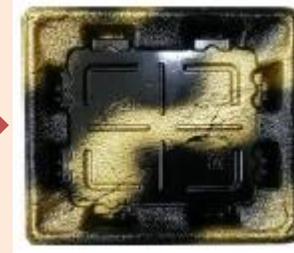
京錦20-16R
素材：HI



1枚あたり
22.9g

1枚あたり重量
約3分の1

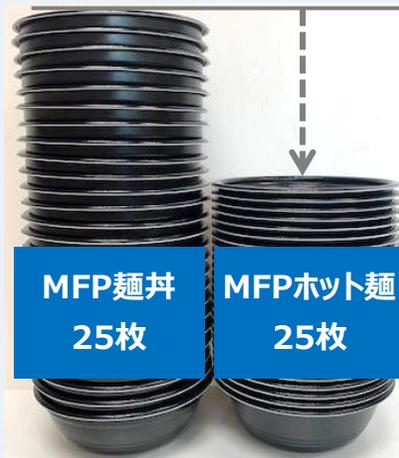
陶彩19-17
素材：PSP低発泡



1枚あたり
7.8g

ロースタック化

ロースタック化により
在庫スペースだけでなく
段ボール費・運送費も改善



ロースタック化
約45%



MFPホット麺シリーズ

環境省
(プラスチック資源循環戦略)

2030年までにワンウェイのプラスチック(容器包装等)を累積で25%
排出抑制するよう目指します

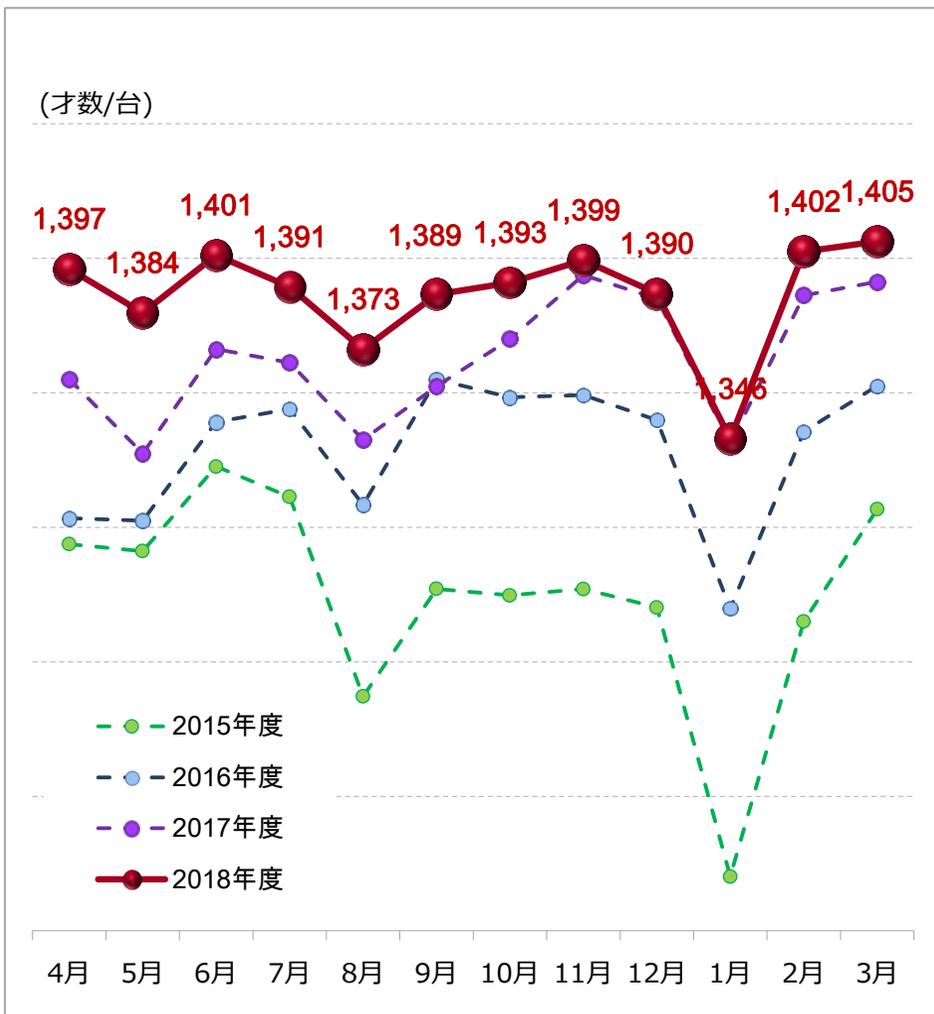
物流・生産の合理化



物流費上昇を抑制する取組み

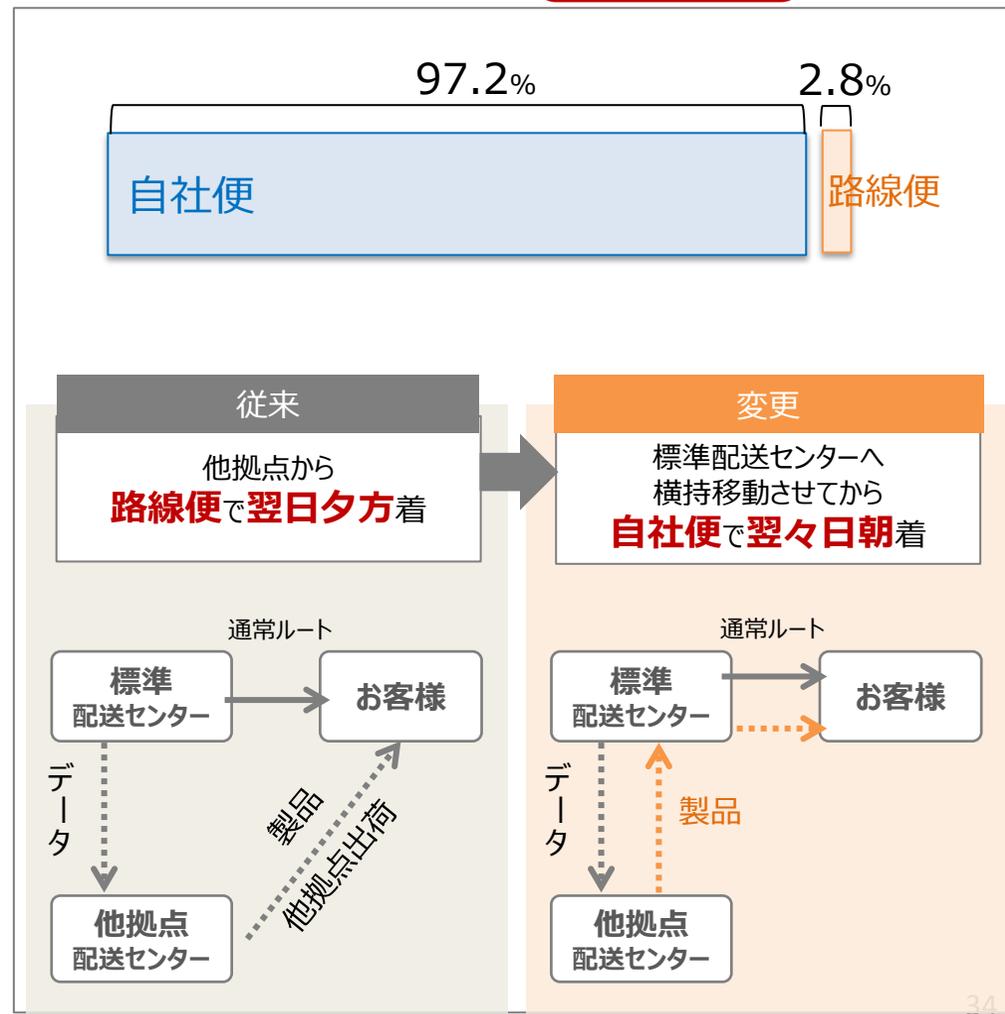
1台あたりの積載効率UP

2015年度比 **106.9%**

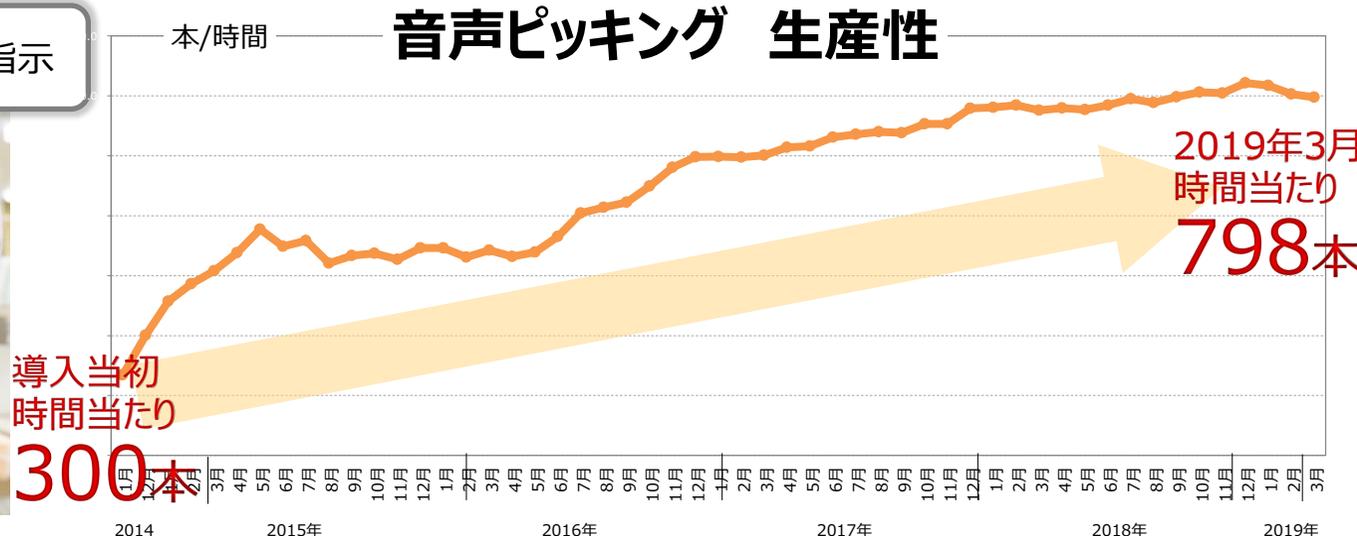


自社便比率UP

2018年3月 **96.4%** ▶ 2019年3月 **97.2%** (+0.8% 約11千ケース)

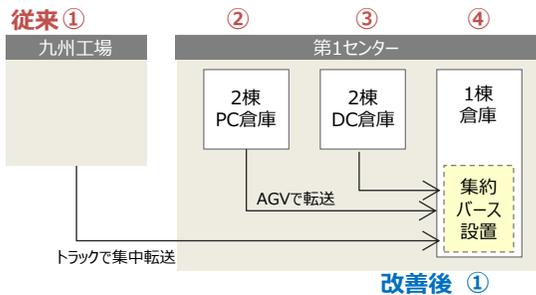


コツコツと改善の積み上げ



積込み場所を1か所に集約し
積込み時間を削減

4ヶ所積 65分
1ヶ所積 35分 (30分短縮)



セット品・出荷頻度に応じて
配置を工夫しピッキングの生産性向上

7人少ないシフトでオペレーション
出来る体制になりました

年月	1日 必要MH	1日 出勤人数	登録人数	余裕人数
'17年9月	362MH	約55人	63人	8人
'18年9月	324MH	約48人	61人	13人
改善効果	▲38MH	▲約7人	▲2人	+5人

手積み+パレット積みで作業時間短縮

	積込み	運行	荷下し	
手積みのみ	72分	90分	62分	▲90分
手積み+パレット	▲48分 24分	90分	20分▲42分	

食品トレーはパレット積みには適さない

1,100パレット使用
大型トラックに
130ケース

手積みで対応していた

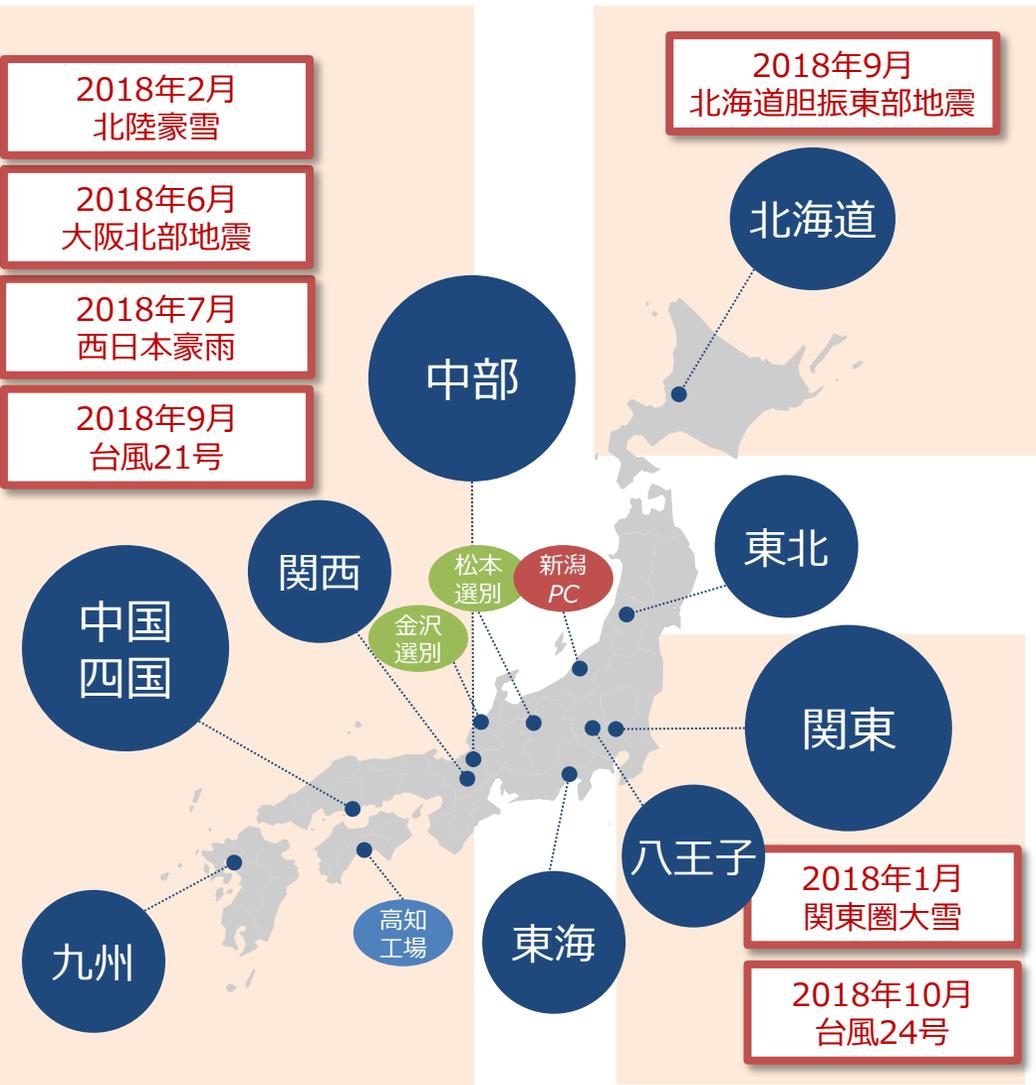
大型トラックに
220ケース

研究の末、手積み+パレット積みで挑戦中

1,500パレット+手積み
大型トラックに
210ケース

安定供給を支える強固な危機管理体制

2018年におきた自然災害



災害時でも止まらない物流体制 “BCP(事業継続計画)”

全国21物流拠点すべてに非常用発電設備を設置。
72時間の電力供給を確保、燃料備蓄

実際の発電稼働を想定した訓練を年2回センター
全員で実施

非常用発電設備

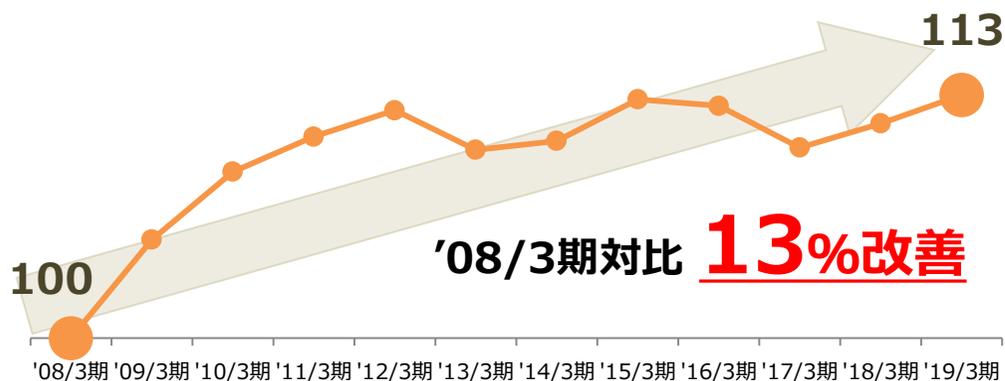


燃料タンク



生産部門による改善効果

時間あたりショット数推移 (指数)



生産ショット
-0.1秒

生産能力
+3.9ライン
に相当

$0.1 \text{秒/ショット} \times 74 \text{百万ショット} = 7.4 \text{百万秒} = 85 \text{日分}$
(月間稼働日数：22日)

改善の積み上げ (塵も積もれば山となる)

段取り時間の短縮

設備の性能アップ

金型・抜型の改善

オペレーターの技術向上

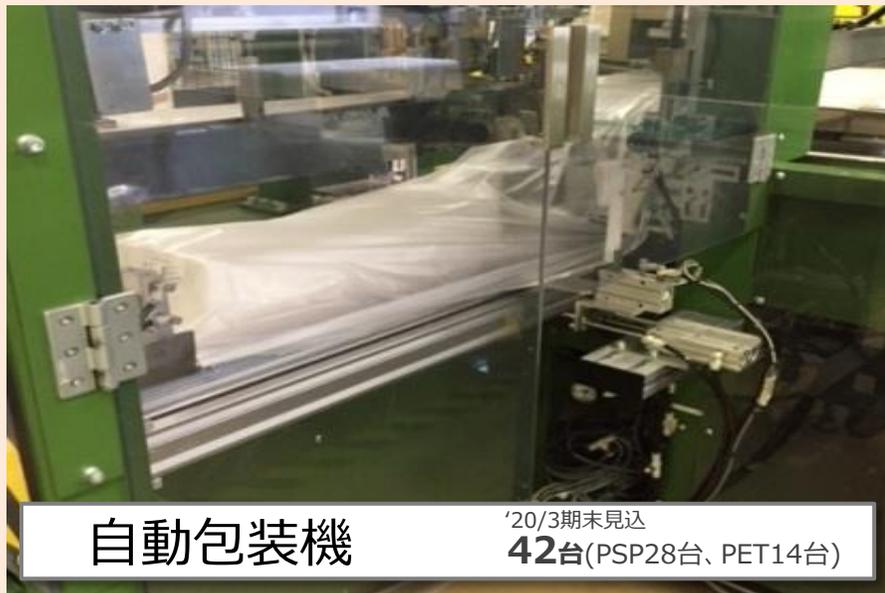
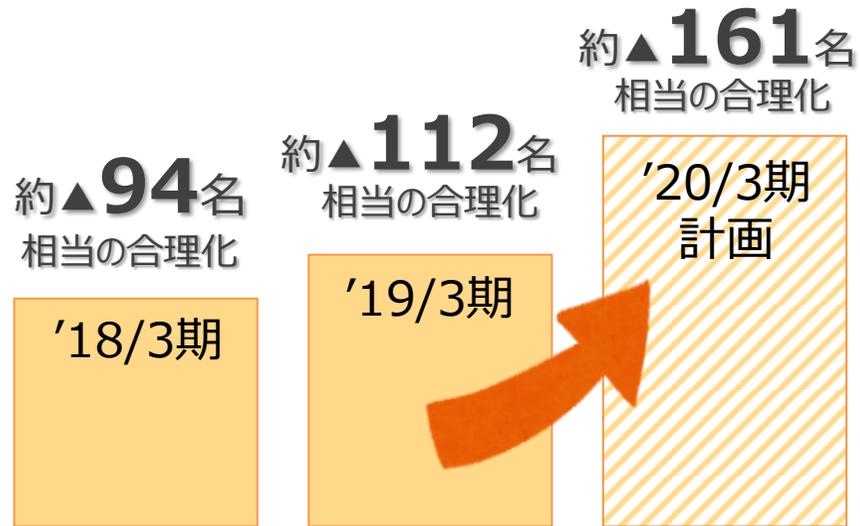
技能塾受講者 累計 292人



「技能塾」修了者ワッペン



自動化による“作業効率”UP（生産部門）



障がい者雇用 働く環境整備



能力を最大限に活かしたダイバーシティ経営



選別センター **10**事業所

自社 7事業所
業務請負 1事業所
事業提携 2事業所



折箱容器組立・二次加工

8事業所

自社 7事業所
業務請負 1事業所



容器製造(発泡・透明)

3事業所

2019年3月末時点エフピコグループ

障がい者雇用人数 : 359名
障がい者雇用率換算数 : 623.5名
障がい者雇用率 : 13.6%

障がい者雇用 に関する認定

- 2019年1月 (厚労省)
「H30年度 障害者活躍企業」認証(エフピコダックス(株))
- 2017年10月 (東洋経済新報社)
「障がい者雇用率ランキング」 4年連続1位



フロアホッケー活動 に関する受賞・認定・登録

- 2019年3月 (東京都)
「心のバリアフリー」サポート企業として登録
- 2018年12月 (スポーツ庁)
「スポーツエールカンパニー」認定
- 2018年11月 (東京都)
「東京都スポーツ推進企業」認定
- 2018年2月 (東京ボランティア・市民活動センター)
第3回「企業ボランティア・アワード」受賞



フロアホッケーとは
スペシャルオリンピックスの冬季競技のひとつです。
エフピコは全日本競技大会や中国四国大会をスポンサリングし
各大会ではグループ社員がボランティアとして運営を支えています。

働く環境整備

独身寮・障がい者グループホーム投資

PicoHouse 3号館 (48戸)
障がい者グループホーム

(広島県福山市)

2020年3月完成予定



PicoHouse 4号館 (64戸)
リニューアル

(茨城県古河市)

2020年3月完成予定



一部グループ会社での
退職金制度見直し

スマイル休暇(5日間の連続有給休暇)
取得を義務化

RPA(ロボットによる業務自動化)
導入の推進

その他労働環境改善に向けた
社内規程整備

成長戦略



新たなビジネスモデル挑戦開始

商品仕入

MD

アイテム選定、在庫集約
PB商品の充実

エピコ商事



エピコグループ インフラ

グループ問屋

地域に密着した営業力

エピコインターパック
エピコ上田
エピコイシダ
アペックス

エピコみやこひも

各地域の有力問屋

全国の物流
ネットワーク

情報
システム

新たなビジネスモデル挑戦開始

資材消耗品取扱高 (イメージ)



エフピコグループのインフラ活用

ECサイト

パックマーケット



MD品



物流



グループ問屋 各地域の有力問屋

地場の
マーケット

小規模顧客
のニーズ収集



設備投資・キャッシュフロー

営業キャッシュフロー

● 設備投資 180~200億 目途

中長期的な成長に向け、高付加価値製品の供給体制を充実

【重点投資分野】

- ・世界初となる新素材の製品化に向けた投資
- ・エコ原料、エコ製品の市場要請

● 連結配当性向 30% 目途

安定的かつ継続的な配当実施
1株当たり利益の最大化

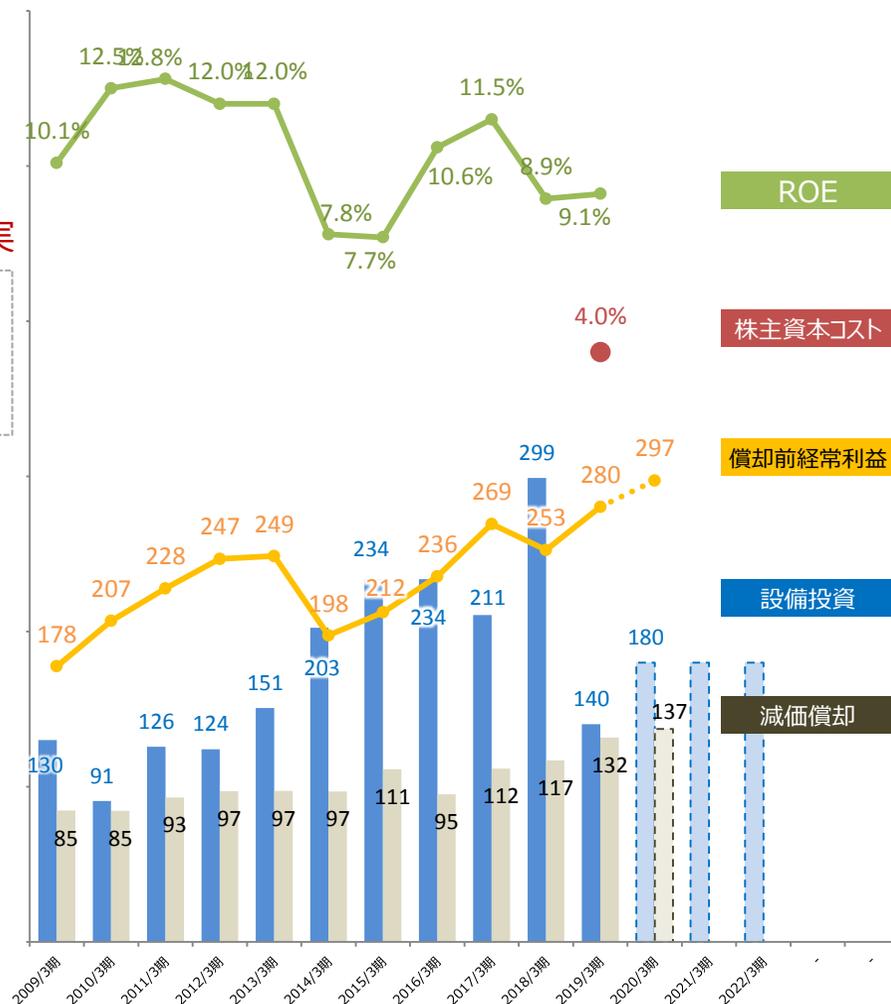
● 自己株式の取得

株価水準により判断

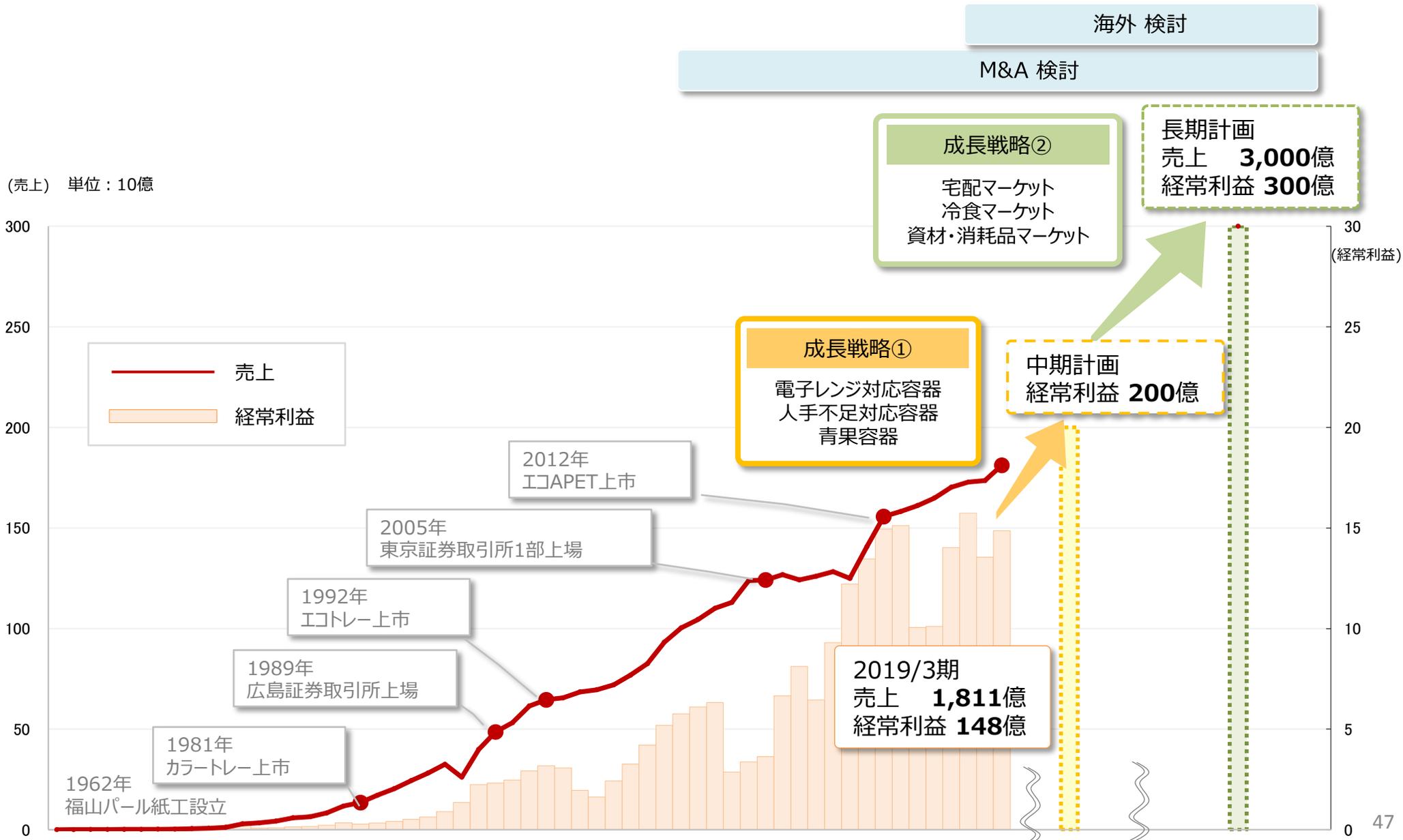
● 有利子負債調整

有利子負債の有効活用と安全性の確保

単位：億円

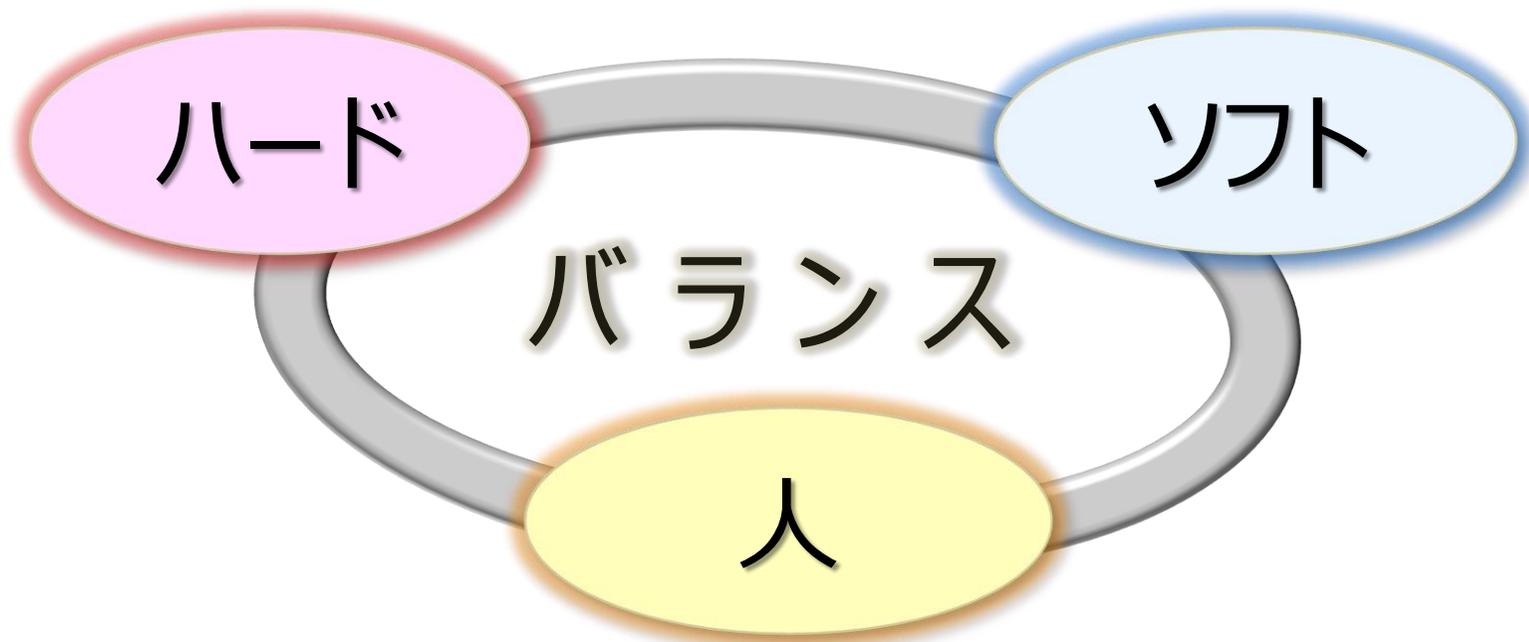


エピコの成長戦略



企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質な製品を
どこよりも競争力のある価格で
必要なときに確実にお届けする」



FPCO-DNAを継承し、「現場主義」・「顧客第一主義」のもと
一步先を見通した提案をし続けます

添付資料

用語解説

PS : ポリスチレン

PET : ポリエチレンテレフタレート

PP : ポリプロピレン

マルチFP(MFP)容器 : -40℃~+110℃の耐寒・耐熱性をそなえ、耐油・耐酸性及び断熱性に優れた発泡PS容器

マルチソリッド(MSD)容器 : マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器
耐熱温度+110℃

OPET透明容器 : 二軸延伸PETシートから成形した、耐油・耐酸性に優れ、透明度も高く、OPSと同等の耐熱性を実現したPET透明容器 耐熱温度+80℃

新透明PP容器 : 標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度+110℃

PPSAシリーズ : 嵌合フードパックタイプの新透明PP容器 耐熱温度+110℃

OPS透明容器 : 従来からの二軸延伸PSシートから成形した透明容器 耐熱温度+80℃

エコトレー : スーパーで店頭回収されたPS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器 (1992年販売開始)

エコAPET容器 : スーパーで店頭回収されたPET透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とするリサイクルPET透明容器
(2012年販売開始)

エコOPET容器 : エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PETシートから成形した、OPET透明容器

クロスドックセンター : お客様にお届けする製品を、個別の配送トラックが在庫倉庫を廻って積込むミルクラン方式にかわり、全ての出荷製品を一カ所に集め、配送ルート毎に自動ソーターで仕分けの後、配達順に積込むクロスドック方式を実現する配送センター

配送センター : 製品をケース単位で出荷

ピッキングセンター : 製品及び商品を小分けピッキングし出荷

選別センター : 店頭回収したPS容器を白と色に、店頭回収した透明容器をPS・PET・PP等の素材に、それぞれ選別

世界初の素材・シート シート加工メーカーからの脱却

PP:ポリプロピレン

- ★ 耐熱性がある: +110°C
- ★ 耐油性に優れる
- ★ 発泡が難しく、軽量化しにくい
- ★ コシ強度が低い
- ★ 耐寒性に劣る
- ★ 透明性が出難い



新透明PP

- ★ 耐熱性がある: +110°C
- ★ 耐油性に優れる
- ★ 透明性がOPSと同等

PS:ポリスチレン



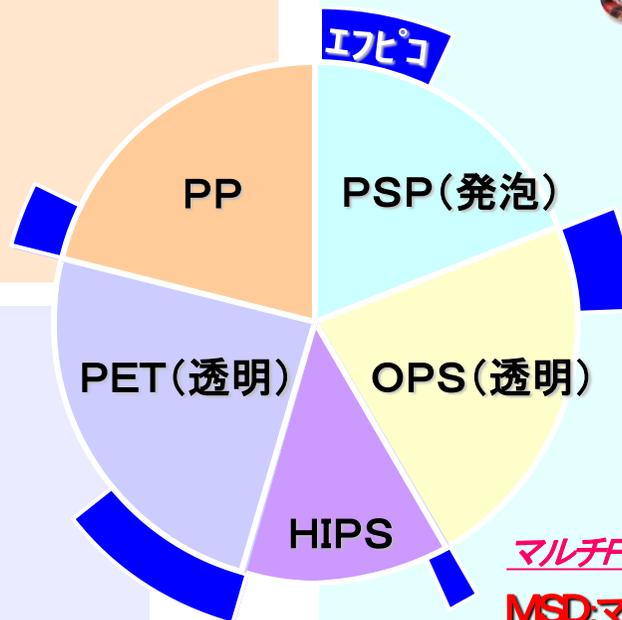
PSP:発泡PS

- ★ 成形性が良い
- ★ 原材料比率が低い
- ★ 軽量化が可能
- ★ 断熱性が高い
- ★ 耐熱性が低い: +70°C
- ★ 耐油性に劣る



MFP:マルチFP :発泡PS

- ★ 成形性が良い
- ★ 原材料比率が低い
- ★ 断熱性が高い
- ★ 耐油性に優れる
- ★ 幅広い温度帯をカバー
-40°C ~ +110°C
- ★ コシ強度がある
- ★ 軽量化が可能



PET:ポリエチレンテレフタレート

- ★ 最後発 樹脂
- ★ 透明性が高い
- ★ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性が低い: +60°C
- ★ 比重が大きい

OPET:二軸延伸PET

- ★ 透明性が高い
- ★ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性がOPSと同等: +80°C
- ★ 延伸により軽量化が可能
- ★ 成形が難しい



マルチFP端材の循環

MSD:マルチリド

:非発泡PS

OPS:二軸延伸PS

- ★ 透明性がある
- ★ 耐熱性: +80°C
- ★ 耐油性に劣る
- ★ 軽量化に限界

'11/3期 '12/3期 '13/3期 '14/3期 '15/3期 '16/3期 '17/3期 '18/3期 '19/3期

2010年2月 マルチFP (MFP) 製品 上市



2012年2月 マルチソリッド (MSD) 製品 上市



2012年5月 エコAPET 製品 上市



2010年11月

中部PETリサイクル工場

2014年6月

西日本ペットボトルリサイクル

2016年3月

中部エコペット工場

2017年8月

関東エコペット工場

2012年11月 OPET 製品 上市



2012年7月

関東八千代工場

2012年6月 新透明PP製品 上市

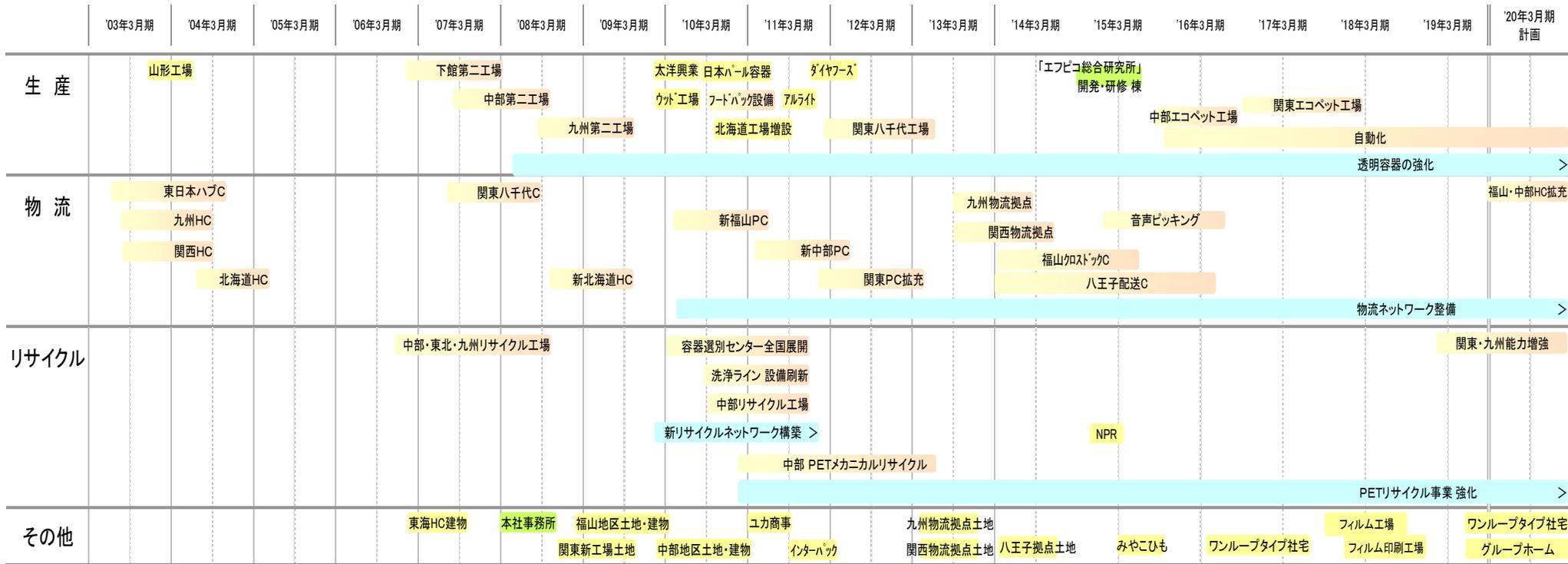


經常利益 増減要因 推移

単位: 億円

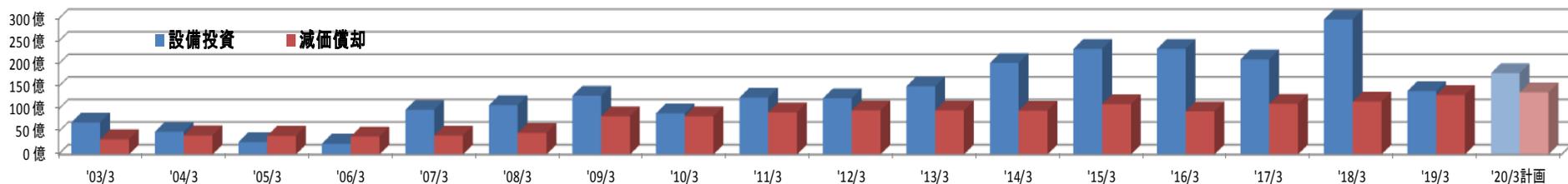
	'03/3			'04/3			'05/3			'06/3			'07/3			'08/3			'09/3			'10/3			'11/3			'12/3			'13/3			'14/3			'15/3			'16/3			'17/3			'18/3			'19/3			'20/3 計画		
	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期									
前期 經常利益	63.1	28.6	33.6	36.3	66.5	81.2	64.5	92.9	122.2	134.7	149.5	75.3	75.9	151.2	51.1	49.4	100.5	47.4	53.6	101.1	66.3	74.0	140.3	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6																						
原料値上り影響	-6.0	-13.8	-36.5	-10.0	-13.0	-39.5	-37.0	-25.0	原料値下り			原料値下り			原料値下り			原料値下り			原料値下り			原料値下り			原料値下り																											
									原料再値上り			原料再値上り			原料再値上り			原料再値上り			原料再値上り			原料再値上り																														
製品値上げ	-25.0	+7.7	+29.2	+4.0			+9.0			+38.0			+25.0			+32.0			+6.5			ナフサ運動			ナフサ運動			ナフサ運動			ナフサ運動			ナフサ運動			ナフサ運動																	
				第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ			第1次 製品値下げ								
				第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ			第2次 製品値下げ								
素材切替・軽量化			+2.0	+8.0	+8.6	+11.8	+24.5	+20.0	新素材			新素材			新素材			新素材			新素材			新素材																														
販売増・Mix改善		+45.0	+17.5			+5.8			+3.0			+7.0			+6.0			+21.5			+15.0			+21.0			+1.0			-			+1.0			-			+4.0			+4.0			+4.0			+4.0						
生産改善	+2.4	-0.6	-2.0	+6.0	+8.7	+3.0	+2.5	+9.5	+12.0	+9.0	+2.5	+1.0	-	+1.0	+0.5	+3.5	+4.0	+5.0	+7.0	+12.0	+3.2	+1.1	+4.3	-3.2	-4.0	-7.2	-0.5	-	-0.5	+1.0	+1.5	+2.5																						
物流改善	+0.3	-14.0	+12.2	+5.5	+8.0	+5.7	+5.0	+9.5	+8.0	+4.0	+1.5	+1.0	-	+1.0	-	-1.0	-1.0	-	+1.5	+1.5	-3.0	-2.7	-5.7	+0.5	+1.0	+1.5	-1.5	-3.0	-4.5	-3.0	-3.0	-6.0																						
グループ会社利益改善								+5.0	+5.5	+5.0	+1.0	-	-1.0	-1.0	-	-1.5	-1.5	+3.0	+2.5	+5.5	+2.0	+3.0	+5.0	-	+1.5	+1.5	+0.5	+1.5	+2.0	+0.5	+1.5	+2.0																						
美術品売却益			+1.0	-1.0	+4.0			-4.0			補助金			補助金			補助金			補助金																																		
経費増加	-6.2	-19.3	-3.2	+4.2	-7.4	-9.7	-15.6	-12.7	-11.5	-13.2	-15.3	-10.0	-7.0	-17.0	-11.6	-10.4	-22.0	-9.2	-8.4	-17.6	-3.7	-2.4	-6.1	-3.1	-2.3	-5.4	-3.3	-3.6	-6.9	-5.3	-3.8	-9.1																						
増減計	-34.5	+5.0	+2.7	+30.2	+14.7	-16.7	+28.4	+29.3	+12.5	+14.8	+1.7	-24.0	-27.0	-51.0	-3.7	+4.2	+0.5	+18.9	+20.3	+39.2	+12.8	+4.3	+17.1	-12.8	-9.1	-21.9	-1.5	+14.6	+13.1	+9.2	+2.2	+11.4																						
当期 經常利益	28.6	33.6	36.3	66.5	81.2	64.5	92.9	122.3	134.7	149.5	151.2	51.1	49.4	100.5	47.4	53.6	101.1	66.3	74.0	140.3	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.0	86.0	160.0																						

設備投資 推移



単位:百万円

	'03年3月期	'04年3月期	'05年3月期	'06年3月期	'07年3月期	'08年3月期	'09年3月期	'10年3月期	'11年3月期	'12年3月期	'13年3月期	'14年3月期	'15年3月期	'16年3月期	'17年3月期	'18年3月期	'19年3月期	'20年3月期計画
設備投資	7,096	5,037	2,742	2,394	9,885	10,909	13,007	9,090	12,585	12,423	15,087	20,258	23,377	23,383	21,060	29,891	14,038	18,000
有形	6,138	4,248	2,621	2,156	9,523	10,655	12,166	8,827	12,352	12,093	14,783	19,751	23,051	23,058	20,790	29,342	13,442	17,700
無形	958	789	120	238	362	254	841	263	233	329	303	506	325	324	269	549	595	300
内金型	780	460	436	550	771	609	1,892	1,507	1,833	1,946	1,425	2,151	2,416	1,777	2,028	1,485	1,462	1,870
減価償却	3,339	4,210	4,134	3,965	4,194	4,742	8,467	8,461	9,316	9,728	9,746	9,703	11,136	9,526	11,183	11,706	13,170	13,730
研究開発	654	628	689	751	895	913	965	1,035	1,101	1,051	1,062	1,148	1,105	1,242	1,223	1,197	1,159	1,310



環境省 プラスチック資源循環戦略（案）

カナダ・シャルルボアG7サミット 「海洋プラスチック憲章」

代替品が環境に与える影響の全体像を考慮し、使い捨てプラの unnecessary 使用を最大限に削除する。

2030年までに100%のプラスチックが、再使用可能、リサイクル可能又は、実行可能な代替品が存在しない場合には、熱回収可能となるよう産業界と協力する。

2030年までにプラスチック包装の最低55%をリサイクル又は再使用し、2040年までには全てのプラスチックを熱回収含め100%有効利用するよう産業界及び政府の他のレベルと協力する。

適用可能な場合には、2030年までにプラスチック製品においてリサイクル素材の使用を少なくとも50%増加させるべく産業界と協力する。

環境省 プラスチック資源循環戦略(案) 「マイルストーン」

リデュース

消費者はじめ国民各界各層の理解と連携協働により、代替品が環境に与える影響を考慮しつつ、**2030年までに、ワンウェイのプラスチック（容器包装等）をこれまでの努力も含め累積で25%排出抑制するよう目指します。**

リユース・ リサイクル

2025年までにプラスチック製容器包装・製品のデザインを、容器包装・製品の機能を確保することとの両立を図りつつ、技術的に分別容易かつリユース可能又はリサイクル可能なものとするを旨目指します。（それが難しい場合にも、熱回収可能性を確実に担保することを目指します。）

2030年までに、プラスチック製容器包装の6割をリユース又はリサイクルするよう、国民各界各層との連携協働により実現を目指します。
2035年までに、すべての使用済みプラスチックをリユース又はリサイクル、それが技術的経済的な観点等から難しい場合には熱回収も含め100%有効利用するよう国民各界各層との連携協働により実現を目指します。

再生利用・ バイオマス プラスチック

適用可能性を勘案した上で、政府、地方自治体はじめ国民各界各層の理解と連携協働の促進により、**2030年までに、プラスチックの再生利用(再生素材の利用)を倍増するよう目指します。**

導入可能性を高めつつ、国民各界各層の理解と連携協働の促進により、**2030年までに、バイオマスプラスチックを最大限（約200万ト）導入するよう目指します。**

関連省庁・団体との連携

関連省庁・団体の活動

エピコの参加状況

環境省

- **プラスチック資源循環戦略**
…2019年6月のG20で、日本の「プラスチック資源循環戦略」をアピール予定
- **プラスチック・スマート**
…“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進し、国内外に発信

- 業界団体として小委員会に参加
- キャンペーンHPにて「トレーtoトレー」「ボトルtoトレー」の取組を掲載

経済産業省

- **クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス**
…廃棄物の適正管理、プラスチック製品の3Rの取組など海洋プラスチック問題の解決に向けたイノベーションを推進する企業連合

- 幹事会員としてアライアンスに参加

農林水産省

- **プラスチック資源循環アクション宣言**
…食品産業の業界団体・企業から、自主的取り組みを募集

- 農林水産省HPにて「リサイクル」「リデュース」「啓発活動」の取組を掲載

日本経済団体連合会

- **SDGsに資するプラスチック関連取組事例集**
…プラスチックの資源循環をより一層推進するとともに海洋プラスチックごみ問題に貢献する観点から、企業・団体による取組事例を収集

- 日本経済団体連合会HPにて「リサイクル」「リデュース」「啓発活動」の取組を掲載

イニシアティブ

- **気候変動イニシアティブ** (Japan Climate Initiative)
…脱炭素化をめざす世界の最前線に日本から参加することを宣言し、気候変動対策に積極的に取り組む団体のネットワーク

- 設立時より参加表明

【施設見学のご案内】

随時受付: 経営企画室 03-5325-7756

最新鋭の 生産 ~ 物流 ~ リサイクル をご覧いただけます。

関東

JR東日本 古河駅 ~ 30分



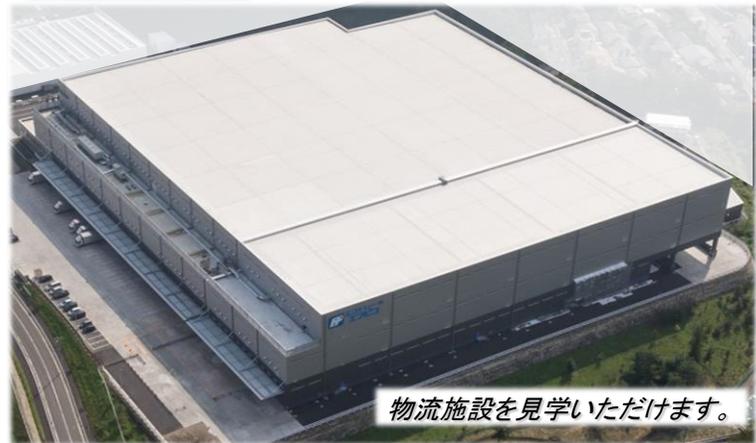
OPET生産設備



エコペット工場
2017年8月完成

八王子

JR東日本 秋川駅 ~ 20分



福山

JR西日本 福山駅 ~ 30分



中部

JR東海 岐阜羽島駅 ~ 20分



PET効率的リサイクルプラント×2